

富山薬窓会首都圏支部

目 次

支部長ごあいさつ .....	(60、S48年卒) 中西 憲幸 .....	1
総会での話題提供①「創業研究を通して改めて感じたこと」 .....	(69、S57年卒) 竹内 誠 .....	2
総会での話題提供②「アンチエイジングと美容」 ..	(68、S56年卒) 木村 友泉 .....	2
正倉院展に想う .....	(47、S35年卒) 並木 英明 .....	3
近況——母校のこと、富山のこと .....	(51、S39年卒) 古市 泰宏 .....	5
精神医療の現状について .....	(58、S46年卒) 千田 耕平 .....	6
「COP10」と生物多様性について .....	(58、S46年卒) 加藤 健二 .....	6
先輩の大学教授退任祝いの世話人を務めて .....	(68、S56年卒) 益見 厚子 .....	8
薬窓会首都圏支部若手の会のお誘い .....	(83、H8年卒) 鎌倉 昌博 .....	8
東急池上線は新幹線を越えている!? .....	(84、H9年卒) 平岡 良隆 .....	9
100字通信① .....		10
桔梗会便り .....	(47、S35年卒) 上村 恵子 .....	11
ゴルフクラブ便り .....	(55、S43年卒) 柿崎 直和 .....	11
平成22年度首都圏支部活動報告・資産状況 .....		13
平成22年度会計報告、平成23年度予算(案) .....		14
平成22年度 支部年会費納入者一覧 .....		15
100字通信② .....		17
編集後記 .....		18



## 若返った首都圏支部体制

首都圏支部長(60、S48年卒) 中西 憲 幸

首都圏支部の皆様、今年の総会から支部長を拝命しました中西です。

私と薬窓会の関わりは、十数年前に当時勤務していた会社の先輩より、「君が幹事長になることを前提に支部長を引き受けたのでよろしく頼む」と言われたことから始まりました。当時は先輩から頼まれれば断れない時代でしたので、やむなくお引き受けしました。主な仕事は年1回の首都圏遠久栄の発行と支部総会の開催なので、高をくくっていました。しかし、支部の業務は予想以上に多くあり、私の仕事が多忙であったため、自転車操業でこなしていました。当時は支部長のいる会社が幹事会社として、総会や幹事会を運営していましたので、会社の先輩や後輩に大いに助けられ、無事幹事長の大役を果たせました。

時代が変わり、支部長を製薬会社から選出することが難しくなり、支部三役(正副支部長、正副幹事長)のトロイカ体制で運営することになりました。その頃私は会社幹事として、多少お手伝いしましたが、支部三役の皆様の負担は大きいものでありました。

その間、私に支部長就任の依頼がありましたが、仕事の関係でお断りしていました。今年の9月で37年間勤務した会社を定年退職するにあたり、支部長の柿崎さんからバトンを引き継いだ次第です。引き継ぐにあたり、前任の支部長と副支部長には残っていただき、副幹事長の66道見さんには幹事長になってもらいました。また、役員若返りと女性の参画のため、前職の後輩の83葛西さんには有無を言わず副支部長を引き受けてもらいました。

若い二人のおかげで、支部総会に若者が多く参加するようになり、会が華やかになってきました。これをきっかけに若手会が結成され、定期的に情報交換会を開催していると聞いています。(参加できないのが残念です)

さて、今年度の総会の話題提供は若手2人をお願いしました。69竹内誠さんからは「創業の話」、68木村友泉さんからは「アンチエイジングと美容」という興味のあるテーマです。是非多くの方にお聞きいただきたいと思います。

3月11日に未曾有の大地震が起こりました。マグニチュードは9.0、16年前の阪神淡路大震災をはるかに上回る規模で、地震に加え大津波と原発事故により、日本国がパニック状態になりかねません。私の勤務しているドラッグストアでは大震災直後に売り上げは2倍、水やトイレトペーパーをはじめ食料品は品切れしました。原発事故の報道直後にはうがい薬のイソジンを買って求める人が増えました。ヨウ素剤といえども放射性ヨウ素が甲状腺に集まりにくくするためには有効ですが、他の放射性物質からの被曝を防御するものではありません。それ以前にイソジンはヨウ素ではありませんので、無効ですが、服用する人がいます。今こそ、薬剤師が正しい情報を伝え、生活者が流言飛語により、不安感をかきたてられないようにすることが使命のように思います。

6年制の薬学部を卒業した薬剤師が卒業して社会に出てくるのは来年です。その前にわれわれ薬剤師が今こそ社会のために活躍しようではありませんか。

## 「創薬研究を通して 改めて感じたこと」

(69、S57年卒) 竹内 誠

現在、新薬開発の成功確率は数万分の1と言われていますが、年々その確率は低くなってきております。一人のメディシナルケミストが一年間に合成する新規化合物は大凡100個程度ですので、新薬を上市することの大変さがお分かり頂けると思います。そのような状況下、幸いにもいくつかの新薬の創製に携わることが出来ましたので、その内の一つについて紹介させていただきます。

入社9年目に鼻炎を適応としたテーマを担当することとなり、暫くドラッグデザインを検討したものの、このまま本研究を継続しても新薬の創製に至ることはない判断し、標的分子の一部を変更することとしました。それに伴って適応症の変更も余儀なくされ、その候補の一つとして挙げられたのが過活動膀胱(Overactive Bladder; OAB)でした。OABは尿意切迫感を主症状として、頻尿や尿失禁を伴う疾患であり、日本では800万人以上が、米国では潜在的患者も含め3300万人以上が罹患していると推定されています。また本疾患の有病率は加齢と共に増加するため、近年の高齢化社会への移行、生活の質(Quality of Life; QOL)に対する社会の関心の高まり等から、OABは今後ますます注目される疾患になると考えられています。以前からOAB治療薬として、ムスカリン受容体拮抗薬が主に用いられて来ましたが、そのムスカリン受容体サブタイプ選択性並びに組織選択性の乏しさに基づく、認知障害、頻脈、口渇、かすみ目、便秘等の副作用が認められ、臨床上のコンプライアンスの点で大きな問題とな

っておりました。

そこで私達はこれらの副作用を回避すべく、膀胱選択的ムスカリン受容体拮抗薬の創製を目的として研究を再開いたしました。創薬研究過程で幾度となく大きな課題に遭遇しながらも、数多くの研究仲間に支えられ、上司に励まされながら、(1S)-1-フェニル-1,2,3,4-テトラヒドロイソキノリンカルボキシレート誘導体という、既存の抗ムスカリン薬とは全く異なる化学構造を有するソリフェナシン(Solifenacin)を創製する事に成功し、2004年のEUを皮切りに、2005年に米国、2006年に日本と、順次上市され、現在では世界66の国と地域でOAB治療に処方されています。今後も進むと予想される高齢化社会に於いて、本薬剤がOABに悩まれている患者さんのQOLの更なる改善等に貢献出来ればと願ってやみません。

終わりに際し、このソリフェナシンの創薬研究を通して非常に多くの事を学ばせて頂きましたが、改めて人間関係(チームワーク)並びに創薬に対する地道且つ粘り強い姿勢の重要性を再認識すると共に、本薬剤の創薬研究、開発に関与頂きました多数の関係各位に改めて感謝申し上げます。

(アステラス製薬株式会社)

## アンチエイジングと美容

(68、S56年卒) 木村 友 泉

このたび富山薬窓会首都圏支部総会で、アンチエイジングと美容について講演をさせて頂く木村です。私が実践している方法は歯科医の佐藤青児先生が顎関節症治療を目的に考

案した「さとう式リンパケア」がメインです。

今までの医療・美容は「プラス志向」で足りないものを補う考えが主流でした。しかし生命にはある条件が整えば、そのしたたかなまでの生命力を最大限に引き出して、より強く環境に適応できる変容が起こります。

例えば「奇跡のりんご」で知られる木村秋則さんのりんごや、ウィスコンシン国立霊長類研究センターでのカロリー制限をしたアカゲザルのデータなどは栄養が十分な環境よりも多少ストレスがかかる環境の方が、より強い生命体に変化する可能性の高さを示唆しています。

このような視点から「さとう式」では体内環境を整える方法として「足し算」ではなく「引き算」を考え方のベースにしています。排泄環境を整えることで、私たちの体に備わっている機能を最大限に引き出す試みともいえるでしょうか。

内圧が高まることで起こっている「痛み」を、内圧を抜いて「鎮痛」する方法も当日ご披露できると思います。美容とは直接関係の無い話題かもしれませんが、体に対しての考え方、意識を変えるきっかけになれば幸いです。

近年皮膚に対しても免疫機能や情報伝達物質を作り出す機能の報告があがってきています。弱い皮膚刺激と関節を動かしてリンパの詰まりを取り体内循環環境を整えると、どのような変化が起こるのかをご紹介します。

これからは薬の効果を高くする方向ばかりではなく、薬が効きやすい体を作る方向からも健康と美容を見つめ直す時期ではないかと考えます。

皆様に講演会でお会いできますことを楽しみにしています。

(オフィス・ライフベクターズ代表)

## 正倉院展に想う

(47、S35年卒) 並木英明

奈良東大寺の大仏さんが出来て、その大仏さんの目が入ったとき、即ち開眼供養会(西暦752年)の後に、光明皇太后は、亡くなった(756年)聖武天皇ゆかりの宝物を大仏殿に奉納された。これが正倉院の始まりである。当時、宝物も含めて大切な物を納めておく倉を「正倉」と言っており地方の寺などにも置かれていたという。それが今は固有名詞になっていて、正倉院は、即ち東大寺の「倉」と言うことである。

藤原京から平城京に遷都された1300年の昔、ローマ、ペルシャなどからシルクロード、中国を経てその終着駅・日本(正倉院)に伝わった珍しい品物や、日本で創られたりした至宝約9000件が納められている。その中から今回は、皇后がはいたことのある刺繍飾りの室内用スリッパ(繡線鞋・ヌイノセンカイ)、木をくりぬいて創ったはずの蔓、花の蓮池形の供養物(蓮花残欠・レンカザンケツ)、黒漆を塗った牛の形をした木製容器・水入れ(漆胡樽・シツコソソ)、杉材を使った大きな方形の草花文様の献物箱(蘇芳地彩絵箱・スオウジサイエノハコ)、白銅で出来た大型の海獣葡萄鏡(鳥獸花背円鏡・チョウジュウカハイノエンキョウ)、スッポン形の容器(青斑石龜合子・セイハンセキノベツゴウス)、檜頑など…、そして私の仕事に関わりのあるもので「種々薬帳」、(これは薬の歴史の一つとして重要な物で、薬60種の名前や重量などを書いた献納目録である)それと実際に使われたとみられる薬の一つの象の歯の化石(五色龍齒)などが展示されると言う。

そして今回の展示品の目玉は楽器・螺鈿紫檀五弦琵琶である。約10年位前、中国新疆

地区シルクロードを旅した時に、クチャのギジル千仏洞の壁画に書いてあった五弦の亀茲琵琶と同様の琵琶が世界で唯一正倉院にあるとのことを知った。

そんな訳で、かねてから是が非でも観たいと思っていた折、第62回正倉院展ではその螺鈿紫檀五弦琵琶が19年ぶりに展示されるとのことで出かける事にした。

東京駅を朝8時に発つと奈良に正午少し前に着く。迎えてくれた友人と昼食をとり奈良国立博物館に一人で向う。今回の正倉院展の開始日から4日目。長蛇の列で約1時間並んで館内に入る。

入口近くでも大勢の人ばかり、あまり多いのでそこを避けて、通り過ぎて先に進んでしまった。

この人ばかりは螺鈿紫檀五弦琵琶の展示されている所だったとは気が付かないでかなり先まで見て、目的のものが見あたらないので、また、戻ってきて観た。

透明のケースに全長108.1cm、最大幅30.9cmと言われる螺鈿紫檀五弦琵琶が入って展示されている。弦を張った正面には駱駝の上で四弦琵琶を引く人や熱帯の木、鳥、花をあしらってある。駱駝の上で四弦琵琶を弾いているのは何処の国の人なのだろうか？ 五弦琵琶はインドにルーツがあり、唐代に流行った。しかし、その後、姿を消し、世界でただ一つ此処に残っているわけである。一方、四弦琵琶のルーツはペルシャということであるのでペルシャ人かな？ また五弦琵琶の絵に四弦琵琶があるのも面白いのと、その国際性を感じ取れると思った。

背面には咲き誇る唐花文などを輪のように繋げて、細かに表している。文様には貝を使った螺鈿、ウミガメの甲羅、琥珀などが全面に用いられ、実に美しい。五弦琵琶なので弦を締める所は5カ所です。左右対称でない。高音部が2カ所、低音部が3カ所となっている。

演奏をする人の調査によると、実際に演奏されたことを物語るようなバチによる傷がバチ受けにあり、また、膝の当る部分である琵琶の底部がすり減っているということだが、それはわからなかった。弦は金属線が使われている。

まさに、今回の正倉院展の目玉である。聖武天皇の遺愛の品だそう。

今年は、東大寺大仏に宝物を納めた光明皇后が亡くなって(760年)1250年の記念の年だという。

天平の煌めき、これらの逸品・宝物がよくも1200年以上にも及ぶ長い時間きれいに保存されていた物だと想うと、驚きである。

湿気を避けるため高床式(床下2.7m)の宝庫で、杉の唐櫃に入れて保管されているそうです。正倉院の建物は北倉、南倉(校倉造り)、中倉(厚い板造り)の3つに分かれており、大きさは、横33m、奥行11m、高さ14mで、因みに螺鈿紫檀五弦琵琶は北倉に納められているそうです。

また、東大寺大仏は2回戦乱による大きな火災に会っている。その1回目は、平家物語にも出て来るが平重衡が1180年奈良南都の焼討ちを行っている。その後、平家が敗れて、重衡は源頼朝の前でも「僧侶の悪行鎮圧にでむいただけで、思いがけなく寺が焼けてしまったのだ」と悪びれた様子もなく答えたと言ったこと。2回目は松永弾正と三好長慶との抗争(1567年)によるもの。その他落雷などもあったが、いずれも正倉院への類焼は無かったと言ったことになる。

大仏殿や正倉院の模型が展示会場内にもあったが、実物はどんな様相だろうか、との思いから博物館を出た後、歩いてみた。それで分かったが東大寺と正倉院は隣とはいえ、かなり離れているからか？とも思った。

博物館の会場にも2時間以上いたので、近鉄奈良駅に戻ったら、4時半をまわり秋の日

は落ち、あたりが暗くなっていた。

正倉院展と時期を同じくして東京上野の東京国立博物館では「東大寺大仏一天平の至宝」と題して特別展が開かれる。これも観に行くことにした。

## 近況——母校のこと、 富山のこと

(⑤、S39年卒) 古市 泰宏  
Furuichi@hiac.or.jp

一昨年から文部科学省のプロジェクト「ほくりく健康創造クラスター」の事業総括をお引き受けし、月の約3分の1は富山・金沢へ行っています。北陸は育った地域だから、雪が降っても、苦になりません、——この地域の企業・大学のお役に立てればと思っています。

クラスターは、大学の「知」を地域産業へ連携させ、産官学の協力により、地域の活性化を進めることが目標です。富山大では、薬学部・和漢研の小松教授、門脇教授、済木教授、服部教授、医学部では村口教授・高津客員教授、理工学部では磯部教授・黒澤准教授（共に薬学出身）、クラスターでは渡邊名誉教授、小橋名誉教授と協力して「基礎から応用へ、事業へ、地域連携へ」を進めています。

和漢研では昨年NPO法人「富山のくすし」が立ち上がり、和漢薬ライブラリーやデータベースの継続的作成、ならびに国内外への標準エキスの提供のほか、生薬原料の栽培など、幅広い事業が展開出来るようになりました。母校のNPO法人「富山のくすし」(理事長：服部教授)へ、皆様のお知恵とご支援をお願いします。

老化が進むと、誰しも「もの忘れ」や「なかなか思い出せないこと」が多くなってきて、

困ったことです。記憶の回路ともいうべき、神経細胞のネット回路が、細胞の脱落により、断絶したり、信号の伝播速度が遅くなったりするからと思われます。これを防止する良い薬はすぐには期待できませんが、和漢研の東田准教授の研究から、良いヒントが得られていますので、トピックスとしてお知らせします。彼女の実験から、漢方薬処方「帰脾湯」や「加味帰脾湯」に、記憶障害改善作用があるらしいことがわかってきました。本当であれば、とても心強いことです。ただ、ヒトでの検証が今一つです。「首都圏遠久朶」誌の読者ならば、試して下さい、——もしその効果が顕著であれば、記憶減弱を救うことになるので——、薬剤師の研ぎ澄まされた医薬の心で検証してもらいたく、期待しています。コーヒーの代わりに加味帰脾湯を喫して(コーヒー代より廉価)、脳の衰弱を遅らすことが出来れば老化も怖くありませんし、母校からの発信で、自分も含めて、ぼけ老人を減らせればこんな良いことはありません。

医学部関連では、先端科学を駆使した抗体医薬や、免疫関連の医薬品研究が村口教授・高津教授や薬事研究所の研究者によって力強く進められています。最近、富山県は、医薬品生産額が、全国第2位になったことが発表されました(1位は埼玉県、3位は静岡県)。この裏には、母校卒業生の地元での永年の貢献があるものと感謝しています。しかしながら、全国第2位の出荷は、ジェネリック医薬品が主ですので、他の産業と同様、やがて韓国・中国との競争に巻き込まれてしまう恐れもあり、今後は、世界標準化した漢方薬や、先端研究に基づく新薬の創薬も加えた実績により、真の「薬の都」になってもらいたいと思っています。

ほくりく健康創造クラスターの仕事はあと2年ですが、北陸へ、その後へも続く、大学の「知」と「地域産業」を繋ぐ、クラスター

組織・活動を残したいと思っています。中国や韓国の台頭により、経済活動も、東アジア・環日本海時代に移りつつあるご時世になって来ましたが、グローバルに活動できる能力を備えた人材を育てるシステムを富山に構築するための旗振りをやりたいと思っています。酒量が増えたせいで、完全にメタボですが、ゴルフは走らなくてもよいので、級友や職場の友人達と楽しんでいます。

## 精神医療の現状について

(58、S46年卒) 千田 耕平

一昨年定年を迎え、間髪を入れず精神障害者のグループホーム事業に取り組みました。娘の発病から早10数年、人生が大きく変わりましたが、今、それがプラスになっていると思っています。娘も、このところ落ち着きを取り戻し、コミュニケーションもとれるようになって来ました。一つの良い兆候があると親としても心が弾み、色んなことがうまく回ってくるようです。

精神病を理解するには、時間がかかります。私自身その途上です。書籍、学会・講演会・勉強会、当事者との触れ合い、そして自ら事業を立ち上げる中で、様々な出会いがあり漸進しています。

今年は、娘の年賀も遂に0枚になりました。理解が進んだとはいえ、やはり敬遠される存在であることは確かです。良い機会を頂いたと思い、遠久朶の紙面を借りて、少し精神医療の現状を報告します。

今日、統合失調症の症状は、陽性症状と陰性症状に分けて考えます。この陽性症状(妄想・幻覚など)が病気のイメージを固定していますが、薬物療法の発展もあり、精神障害者の多くは、一見、普通に見えることが多くなり

ました。しかし、陰性症状(引きこもり、話の内容がない、表情が乏しいなど)が残り、また、社会との関わりが乏しいことが、その症状を助長しています。彼らは、疲れやすく、長続きしないことからしばしば怠け者に見え、この事が家族との軋轢を生み、また、就労に結びつかない原因となります。この陰性症状に非定形向精神病薬の有効性が作用機序を示し主張されていますが、必ずしも臨床でEBMがあるとは言えません(クロザピンは多少EBMあり)。

精神障害者も長い人生を生きていかなければなりません。精神科リハビリ、地域リハビリといった取り組みが重要になって来ました。精神病は長期に亘って病院というシステムの中で治療するものではなく、陽性症状が活発な急性期は病院で、その後は地域の中で社会と触れ合い人間としての経験を積んでいくことが大切です。特効薬などなく、普通に生きることが最大の治療になります。イタリアでは、2000年までに、精神病院を無くしました。“地域へ”の移行は世界の趨勢です。

精神病の急性期は、確かに危ない面があります。また、周囲が大変なこともよくあります。しかし、総じて心優しい人が多いと感じています。彼らとは、裏表なく本音のお話が出来るのです。

幸か不幸か精神病と関わることになりましたが、皆さまにも関心を深めていただくと幸いです。(NPO法人アドボケイト会)

## 「COP10」と生物多様性について

(58、S46年卒) 加藤 健二

私ごとですが、昨年よりサンデー毎日となりましたので、日ごろ地域の自然保護団体で鳥や草木の観察などしております。

それで昨年、名古屋で「COP10」が開かれましたので、その話題と生物多様性について、少し書くことにしました。

「COP10」ですが、国連主導で世界より約200国の人々が、年齢や組織も多様に集まって、1カ月間に近い議論を重ねました。

このことは、地球と生物に関する議論が、各国の利害関係も含めて国連規模で必須となっていることの証かと思えます。

また「COP10」は論議だけでなく、今後の実行活動を含めたいわば約束が多数ありますので、今後それらが各国各地で進められますので是非注目ください。

日本についてみますと、昨年「佐渡のトキ」が大きな話題となりました。

「トキ」の保護とはどのような意味を持つのでしょうか。

「トキ」にコストを投じて保護せざるを得ない自然全体の危機が迫っていることが象徴的に示されているように思えます。

環境省HPからの図ですが、多くの絶滅危惧種が30%になり、また地球の森林は極度に減少しつつあります。今、人類の食料さえおぼつかなくなってきた状況で、つまり「トキ」は明日の人類を占う象徴のように見えます。

さて「生物多様性」の意味は人間誕生から計算しても10万年以上の年月をもって調和してきた地球上の生物の相互関連性と考えられます。卑近に表現すれば動物、植物、微生物

物を含め、どの生物もお互いに「衣食住」の対象とする調和関係と言えます。

ある生物種の死滅は、他の生物の「食」や「住」の欠乏につながり、それらの頂点に君臨する人類の滅亡へと、いずれ巡っていくものです。

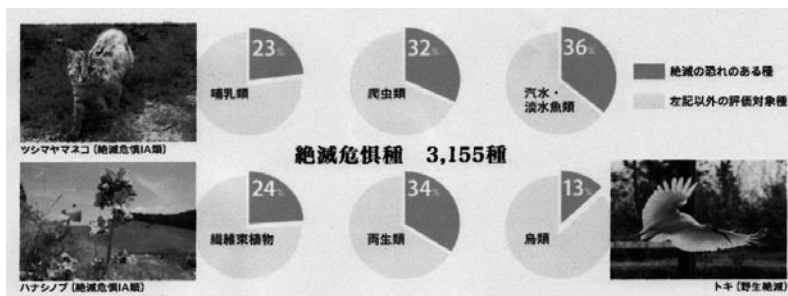
これは食料だけでなく、種々の自然破壊についても同様ですが、日本はたいへん緑豊かな国であります。実は木材をコスト面の理由で80%を輸入しており、外国の森林伐採の原因をなしている事はあまり知られていません。

自然は使い方により継続性(再生可能性)を持つことができますので、森林、海、里山など地球の限られた面積で、多くの生物が生きていける工夫をすることこそ、万物の長であり高度知能を持つ人類の責務かと思えます。

皆様の身近にもいろいろな情報があると思えますので、それらへ関心を是非向けていただければと思います。

たとえば行政では環境省、林野庁、農水省および各都道府県、市、区、NGO、NPOなどのホームページにたくさんの関連事項が見つかります。

また植物園、博物館・図書館などでは講演会、観察会、ボランティア活動など多彩にありますので、興味ある記事が目にとまりましたら、関心やイベントへの参加もいただければ幸いです。





## 先輩の大学教授退任祝いの世話人を務めて

(㊟、S56年卒) 益見厚子

2010年の年が明けてから、母校の教授の叙勲祝いや退官祝いが相次ぎ、その時々には昔の同僚に再会しました。今回私がこの会の発起人となったのはこれがきっかけでしょうか。

檀原宏文先生(第54回生)は私が1986年から大学院生としてお世話になっていた東京医科歯科大学難治疾患研究所の当時の教授、塚田欣司教授(元和漢薬研究所教授)を通じての知人です。当時は富山大学薬学部出身の先輩方がよく塚田教授を訪ねてこられており、檀原先生をはじめとした先輩方と知り合いになる機会がたくさんありました。それで今回私が檀原先生の退任祝いの世話人をやってみるようになったわけです。また北里大学で檀原先生と仕事をされてきた松井先生(塚田研究室での私の大学院時代の同僚)が世話人補佐をやってくださったので、非常にやりやすかったというのがありました。

会は富山大学薬学部関係者と北里大学関係者がほぼ10人ずつ集まり、22人で東京KKRにて開催しました。開催場所のKKRも私の勤務する研究所がよく班会議などで使っているのですぐ思いつきました。同窓生の参加者に関しては加藤健二さん(58回生)等、“三金会”のメンバーの方々の協力を得ました。私の後輩の方たちも檀原先生と面識がなくてもミニ同窓会という感覚で出席してくださいました。関西支部から勝山巖さん(58回生)も参加してくださいました。檀原先生の退任講演の話の中では富山大学時代の同級生との交流から始まり、後半は北里大学での教育研究の話をなされて、富山大学と北里関係者の両者にとってたいへん有意義で楽しい話だったように

思います。続いて向井遼三郎さん(54回生)が(予告無しに)バイオリン演奏をしてくださって楽しく和やかな雰囲気を作ってくださいました。

檀原先生の仕事の関係者が半数と友人の同窓生が半数参加でしたが、教授退任祝いという名目でちょっと同窓会——といったところではなかったでしょうか?(下に参加者全員の集合写真を添付します)。

最後に私が松井先生とこのような会を開催し、小規模ながら同窓生や北里関係者と楽しい会を経験することができたのは、参加者の皆様はもちろん、同窓生の皆様のおかげです。皆様に感謝の意を表します。

(国立感染症研究所)



## 薬窓会首都圏支部 若手の会のお誘い

(㊟、H8年卒) 鎌倉昌博

富山医科薬科大学を卒業してはや16年。それまで薬窓会の存在すら忘れてたのですが、学部時代の同級生の籙木さんやイギリスから帰国した葛西さんに連れられて、三金会、首都圏支部総会に参加させていただいております。

三金会は、毎月第三金曜日に、池袋の、「多

津よし」というとてもおいしい牛タンの店で開催されています。どきどきしながら初めて参加した3年前、普段話すこともできないような先輩方から、温かいお言葉、先輩方の人生、教訓等々楽しいお話をさせていただきました。これまで会ったこともないのに、富山大学の薬学部卒業というだけでここまで温かく迎えていただけることは、非常にありがたく、とても大切な縁だと思います。

といっていきなり先輩方の中に入るのは気後れしてしまうものです。

参加することを考えていても、きっかけがなく、なかなか参加できない人もいますでしょう。そんな人たちにも参加してもらうことを目的として、若手の会を発足しました。

参加条件は、富山大学薬学部卒、という点のみです。

活動は年2、3回程度不定期に実施しており、おいしい料理を食べて、楽しいお酒を飲むことをモットーとしています。これまでは富山料理に舌鼓を打ったり、お花見をして楽しい時間を過ごしています。

そんな若手の会も第4回を数えることとなりました。徐々に参加者の輪を広げており、現在メンバー登録は20人(参加いただいた後はメンバーとして随時イベント情報を流しています)です。2月24日に銀座の「さかなさま」で開催した第3回若手の会には鑄木淳平(95年卒)、葛西美恵(96年卒)、平岡良隆、膝附由香、木村徹(97年卒)、高瀬明子、川邊香代、岡田英之(98年卒)、田村文、松本悠、木村耕士(06年卒)、山崎由香(08年卒)、鎌倉の13人が参加しました(写真)。第4回は06年、08年卒の皆さんも参加いただき、徐々に若手の会らしくなってきました。

社会生活にはさまざまな人との出会いがあります。それは仕事関係のつながりが中心となることが多いのですが、その中に同じ大学の同窓生の関係も築いて見ませんか? 同業他

社、別の職業などさまざまであり、心地よさとともに程よい刺激もあるかと思います。

今回は4月2日にお花見を予定しています。今後若手の会に参加いただける方を心よりお待ちしております。下記アドレスまで連絡ください。

kamakura.masahiro@mbl.co.jp



## 東急池上線は新幹線を越えている!?

(84、H9年卒) 平岡良隆

最近ひそかに盛り上がりを見せる医薬大若手OB会に参加していると、意外に東急池上線沿線の住民が多いことに気が付きました。富山と池上線に何か特別な結びつきがあるとは思えませんが、この場を借りて池上線の魅力を宣伝することで、益々ご近所に同窓生が集まることを期待して、それでは一席始めさせていただきます。

私鉄の王様といえば東急電鉄ですが、その中でも世田谷線と池上線は他社路線も含めて抜群のローカル線扱いを受けており、この部分は沿線住民も若干気にしている部分ではあります。しかし、その歴史には現在の営業風景からは想像もつかない激動の過去が...。その歴史とは遡ること約90年、当時の池上電気鉄道は京王・京成グループの前身である川崎財閥の支配下にあり、雪が谷大塚駅付近

から環状八号線沿いに北上して中央線国分寺駅まで到達する壮大な延線計画を掲げていたそうです。無論その先は今も昔も変わらず東急の縄張りです。東急グループの事実上の創業者としてその豪腕ぶりが語り継がれる五島慶太がその計画を潰しにかかり、結果として池上線の全てを手に入れるという成果を上げ、そこから現在に至る東急グループ発展の歴史が始まったそうです。

どうですか？のんびりとした3両編成の到着を出迎える視線にも、いたわりと畏怖の気持ち満ちてきます。

ここまではインターネットで歴史を調べれば直ぐに分かることですね。では、ここからが本番です。池上線の秘めた魅力をご披露します。

更に歴史を遡り次の舞台は戦国時代です。若手落語家の古今亭駒次さんによる鉄道路線を擬人化した新作落語「戦国鉄道絵巻」では、東急のスター路線・東横線が東急グループを離脱してJRグループへと寝返ったことから、田園都市線をはじめとする「東急連合軍」と「JR軍」による全面戦争が勃発します。東急連合軍には他社私鉄スター路線ら援軍が続々と登場し、非常に活気ある戦国絵巻が展開されるのですが、軍勢は明らかにJR軍に優位となっていくます。

そこで東急連合軍は戦局の打破を図りJR軍の総本山「新幹線基地」への総攻撃を計画しますが、作戦成功の鍵は如何に敵の動揺を誘うことができるか、そのとき池上線の力が始めて必要となるのです。「たかが3両編成のローカル線が、新幹線の頭の上を跨いで営業している」という事実は、鉄道の王様にとっては何がなんでも隠し通したい秘密だったのです。

どうですか？新幹線の頭の上を悠然と駆け抜ける3両編成に愛着を感じます。

さて、その秘密の現場は御嶽山駅のホーム

南端にあるわけですが、そこを訪れる前には是非、件の落語をお楽しみ下さい。新幹線を見下ろした後に池上線を振り返ると、そこにフランスの騎士が走り抜けるかのような感覚をお楽しみいただけたと思います。

## 100字通信①

③⑨、S26卒 米丸 洋子

soka.yonemaru@tbn.t-com.ne.jp

富山薬専しんがりの殿、39回生の私ももう傘寿。よくぞ歳を重ねたものです。此の度、桔梗会を退会しました。桔梗会は薬窓会からも温かい応援を受け30年。私にとっては同窓の仲間と学ぶ貴重な勉強の場でした。振り返り感謝で一杯です。

④⑨、S37卒 土方 久家

小泉行革で薬、理髪、酒の三大小売販売、サービス業の伝統的家業が存続の危機に都会も地方も陥っております。

薬業界もご存知のように平成21年の薬事法の改正で従来の薬局が24年までに医療用薬品を使う調剤薬局と一般薬等を扱うドラッグストアに店の入り口を分けなければならないことになりました。

医療を担う6年制薬剤師の活躍が今後の発展の鍵を握っています。

⑤⑨、S47卒 辻 優

卒業後、MR約10年、ダイエー薬品部約3年、薬店経営約10年、調剤勤務約6年、薬店勤務約9年と波瀾万丈の薬剤師人生でした。その都度エネルギーを出し尽くし、そろそろ年貢の納め時かと。富山大学薬学部のプライドと共に。

⑥④、S42卒 庄司 孝市

幹事の皆様にはご苦勞様です。54回生の今年と同級会は福井県、昨年は安芸の宮島、一昨年は沖縄と大体30人位は集まり、毎年楽しませていただいております。今年さらには遠く柔道のOB会もあるとの事。楽しみです。

---

会報に同封されている100字通信ハガキで近況をお知らせください。またメールでの連絡も受け付けていますので、宜しくお願い致します。

---

## 桔梗会便り(最終回)

### 桔梗会は、33年目を迎えました。

(47、S35年卒) 上村 恵子

5月の例会は、57回45年卒 群馬大学医学部保健学科教授 保坂公平氏をお招きして「ヒトゲノム計画の過去、現在、未来」をテーマとした講演会を開催しました。

事前に、「首都圏遠久朶」に講演会の案内を掲載したので、先生の同期生と元会員その他の参加が6名ありました。

パワーポイントを使って、メンデルにはじまる遺伝子の概念、分子生物学の歴史、ゲノム、ヒトゲノムの解析、それに基づく未来のオーダーメイド医療、遺伝子と病気及びそれに付随した個人情報管理、保護などを講演下さいました。

私には卒後に始まった新しい学問の分野ですが、以前に「シンプル免疫学」を輪読しており、理解が助けられたのはとても嬉しいことでした。

10月には、「シンプル薬理学」の輪読が終わりました。

11月の例会は、会員で昭和大学客員教授の佐藤和恵さんに、「食生活とエイジング」について講演をお願いしました。

食糧自給、食の安全、食育など食に関心が高まっているなか、食物と血管、肝臓、脳、免疫、菌、皮膚の関係を学びました。

「食養士」という専門職がありますが、これは身体と精神の健康を保ち、活力ある命の営みを維持するために、食環境づくりのリーダーとして人々の健康維持に貢献できる食の専門家です。佐藤さんがこの養成講座で、2010年サマースクーリングに講義された内容を講演していただきました。

桔梗会は、会員の総意により12月の例会をもって勉強会を終了いたすことになりました。

た。

また、桔梗会発足当初より、会の方向付けやテキストの選択に適切なアドバイスをいただき、30周年懇親会にもご出席下さいました、38回卒 元昭和薬科大学学長 飛永精照先生が8月にご逝去になりました。このことも区切りを象徴しているように感じました。

今後、桔梗会は、永年の交流を惜しみ、なつかしんで、年数回の懇親会を開きます。

首都圏同窓会からは、長い間物心両面にわたりご支援をいただきました。

このことをあらためて感謝し、御礼を申し上げます。まことに有難うございました。

## ゴルフクラブ便り

### 第78回ゴルフ戦記

2010年4月23日、晴れあがった空の下にコースに集まったのは、ゴルフと健康が自慢の14人でした。このところ、当薬窓会ゴルフ同好会では、心ならずも体調を崩してゴルフを断念(退会)される方や、一時的な体調不良で不参加となる方が少なくなく、事務局としては大いに心配している次第です。もちろん、新しく参加される方もおられるのですが、何しろ最若手(58回卒)といえども還暦を過ぎていきますので、「健康でゴルフができるのが一番」を合言葉にしている私たちですから、ゴルフで健康づくりをしつつ、末永くゴルフを楽しみたいと願っています。

今回も、戦い終わってみれば、実力通りの結果が出ました。しかも、みなさんそれぞれに収穫の多い戦いとなりました。

まず優勝は、ハンディキャップ(30.0)に恵まれた(新ペリア方式のコンペに強いと定評あり!) 柿崎<sup>56</sup>でした。また、持ち前の立派な体躯を生かして、豪快なショットを放つ

関誠④⑦さんが、ベスグロ(グロス83)賞を獲得しました。関さんはつねに優勝候補の一角を占め、ベスグロ賞と上位入賞の常連です。準優勝は、最近着実にショットとスコアが安定している(グロス92の好スコア)南法夫⑤③さん。何と云っても、今回の会場までわずか10分ほどの近さという地元筑波の住人ですので、グリーンの芝目を読むのも朝飯前といったところでした。ブービー賞は、今後の精進を励まされて受賞するのですが、イマイチ成果が現れない?川畑耕祐④⑥さん、BMは大波賞(前半と後半のスコアがもっとも多かった人に与えられる賞。ただし、前半よりも後半のスコアが良いことが条件)も合わせて獲得した、最若手会員の石井誠司⑤⑧さんでしたが、後半のスコア(47)は、十分にこれからの上達を予感させるものとなりました。

懇親会の席上、次回(79回コンペ)開催地に関して、伊勢谷篤弘④⑦さんから提案があり、パブリックの名門、「八千代パブリックGC」(千葉県八千代市)と決まりました。また、事務局から、「いよいよ、80回コンペ(40年!の歴史)も近づいており、恒例により、1泊での開催を企画(栃木県方面を検討中)との提案もありました。5回ごとに開催している周年記念コンペの際には、名誉会員にも声をかけさせていただき、楽しく思い出を語り合う懇親会にする慣行でもありますので、どうぞお楽しみに。

(事務局：⑤⑤、S43年卒 柿崎直和)

### 第79回ゴルフ戦記

(2010年10月22日)

今回のコンペ会場は、関東地区のパブリックゴルフ場では最も歴史があり(1961年開場)、コースの風格からも“名門中の名門”となっている「八千代GC」でした。当会のコンペ

開場としても、過去に何度か開催されています。しかも、前回の懇親会で伊勢谷篤弘④⑦さんから提案していただいた通り、プレーヤーがキャディつきで11,000円と破格的の値段になりました(懇親会も、大サービスをしていただきました)。

コースは、一世を風靡したプロゴルファー、安田幸吉氏の設計になる18ホールレイアウトで、戦略性十分、美しく、都心からも近い(最寄り駅が、東京メトロ東西線・東葉高速鉄道の終点、勝田台駅)など、当コースは満足度が非常に高いのですが、ほんのわずかの弱点が「乗用カートがなく、歩いて回る必要があることと、クラブバスを運行していないこと」です。歩いてプレーすることは、「たまには全ホールを歩いて回れる体力を維持することが大切」と理解していただき、もう一方のクラブバスの方は、千葉県在住の会員が勝田台駅に集合した会員たちを自家用車で運んでくださり、17名の参加者が全員無事に集合できました。お天気は快晴で、いつもの葉窓会コンペに相応しい快晴のお天気の下、熱戦が繰り広げられました。

戦績は、近年、ご自身のゴルフ人生で楽しく学んだことを「本」にまとめて出版された川村長生④⑥さんが、ご自身のゴルフ理論を実践され、堂々のベスグロ優勝を果たされました。準優勝は名手小国益男④⑦さんが今回も順当に入賞されました。3位には、若手で進境著しい石井誠司⑤⑧さん、着々と成果が出てきています。BBは加藤健二⑤⑧さん、BMは川畑耕祐④⑥さんでした。

(事務局：⑤⑤、S43年卒 柿崎直和)

## 平成22年度 首都圏支部活動報告

## 首都圏支部資産状況

(平成 23 年 3 月末現在)

### 1. 定期総会

平成 22 年度首都圏支部定期総会

普通預金 (北陸銀行) 7,214,567 円

平成 22 年 6 月 26 日 (土) 茗溪会館

### 2. 幹事会

第 1 回幹事会

平成 22 年 10 月 26 日 (火) 茗溪会館

第 2 回幹事会

平成 23 年 1 月 14 日 (金) 茗溪会館

第 3 回幹事会

平成 23 年 4 月 22 日 (金) 茗溪会館

### 3. 役員会

業務引継 (新旧役員)

平成 22 年 8 月 2 日 (月) エーザイ別館

### 4. 平成 23 年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付

平成 23 年 2 月 15 日発送

### 5. その他

薬多津三金会 (毎月第三金曜日開催)

於：多津よし (東池袋)

## 平成22年度 首都圏支部役員

(平成 23 年 3 月末現在)

支部長：⑥〇、S48 年卒 中西 憲幸

副支部長：⑤⑧、S46 年卒 加藤 健二

⑧③、H08 年卒 葛西 美恵

幹事長：⑥⑥、S54 年卒 道見 茂樹

副幹事長：⑤⑤、S43 年卒 柿崎 直和

## Eメールアドレス登録ご協力お願い

首都圏支部の限られた資産を末永く維持させるため、事務局からの「首都圏遠久朶」、「総会案内」の発送をこれまでの郵便利用から可能な限りEメール利用に切り替えて経費節減することを幹事会で計画しています。また、会員からの「総会出欠返事」、「100字通信」の連絡も同様です。

つきましてはEメールアドレスをお持ちの方は是非事務局に連絡いただきますようお願いいたします。卒業回、卒業年、氏名、メールアドレスをあわせて事務局 (以下のアドレス) 宛お送りください。ご協力よろしくお願ひします。

富山薬窓会首都圏支部事務局 アサヒ興業 (株) 宇田川：uda@pop-asahi.co.jp

富山薬窓会首都圏支部幹事長 道見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

なお、総会当日もEメールアドレスの登録を受け付けます。

## 平成22年度会計報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

I. 収 入 の 部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	8,223,273	8,223,273	
年会費	400,000	299,000	
総会参加費	600,000	363,000	
普通預金利息	3,000	1,544	
合 計	9,226,273	8,886,817	

II. 支 出 の 部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	600,000	489,508	
会合費(幹事会等)	100,000	118,548	
交際費	10,000	4,000	
事務通信費	200,000	300,715	
同好会補助費	64,000	64,000	
会報発行費	600,000	626,025	
出張費	100,000	50,000	
事務局費	40,000	19,454	
次年度繰越金(普通預金)	7,512,273	7,214,567	
合 計	9,226,273	8,886,817	

## 平成23年度予算(案)

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	7,214,567	総会費	500,000
年会費	350,000	会合費	100,000
総会参加費	400,000	東北地方太平洋沖大地震義援金	100,000
普通預金利息	1,500	交際費	10,000
		事務通信費	300,000
		同好会補助費	40,000
		会報発行費	600,000
		出張費	60,000
		事務局費	30,000
		次年度繰越金(普通預金)	6,226,067
合 計	7,966,067		7,966,067

# 平成22年度 支部年会費納入者一覧

(総計 297 名)

※平成22年5月から平成23年3月  
までに年会費を納入された方の一覧  
です。

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
23	昭和	10	山下正男	42	昭和	30	吉村久仁子	47	昭和	35	安川正巳
26	昭和	13	竹澤富三	42	昭和	30	久世啓吾	47	昭和	35	安川俣子
28	昭和	15	岩崎光一	42	昭和	30	種谷 豊	47	昭和	35	伊勢谷篤弘
28	昭和	15	須田民三	42	昭和	30	渡邊 静	47	昭和	35	若林庸夫
29	昭和	16	三辺義久	42	昭和	30	才川 勇	47	昭和	35	小国益男
30	昭和	17	高山 薫	43	昭和	31	落合信雄	47	昭和	35	上村恵子
30	昭和	17	米屋清一	43	昭和	31	車田知之	47	昭和	35	倉石弘一
31	昭和	17	渡會春雄	43	昭和	31	細 信彦	47	昭和	35	関 誠
32	昭和	18	石倉隆一	43	昭和	31	久郷正孝	47	昭和	35	並木英明
33	昭和	19	岩崎 貢	43	昭和	31	古徳 治	48	昭和	36	阿部喜久子
34	昭和	21	織井文貞	43	昭和	31	山岸伸郎	48	昭和	36	川上 惇
34	昭和	21	石田鉄朗	43	昭和	31	本多 存	48	昭和	36	川上芳子
34	昭和	21	永井哲之	43	昭和	31	脇田秀雄	48	昭和	36	熊木健治
35	昭和	22	野村哲夫	44	昭和	32	石原俊明	48	昭和	36	樋口明彦
35	昭和	22	山木 高	44	昭和	32	岩崎 朗	48	昭和	36	船場定信
36	昭和	23	島谷佐太郎	44	昭和	32	大村恭子	48	昭和	36	三浦 晋
36	昭和	23	高柳 清	44	昭和	32	金森桂子	48	昭和	36	村杉和子
37	昭和	24	秋元 昂	44	昭和	32	川村隆子	48	昭和	36	安宅久弥
37	昭和	24	千葉繁治	44	昭和	32	車田千秋	48	昭和	36	久保一夫
37	昭和	24	山口輝夫	44	昭和	32	鈴木芳子	48	昭和	36	久保春子
37	昭和	24	大和宗雄	44	昭和	32	永田邦夫	48	昭和	36	中嶋 啓
37	昭和	24	伊藤謙治	44	昭和	32	林 吉孝	48	昭和	36	油木勲之
38	昭和	25	今村尚幸	44	昭和	32	紙谷得子	48	昭和	36	井上禎子
38	昭和	25	上野 洵	44	昭和	32	高木良造	48	昭和	36	定留温子
38	昭和	25	小西一光	44	昭和	32	高瀬清孝	49	昭和	37	川村博子
38	昭和	25	橋本人之	45	昭和	33	上田真澄	49	昭和	37	鈴木国男
38	昭和	25	林 昌宏	45	昭和	33	佐藤 忠	49	昭和	37	廣江光代
38	昭和	25	熊谷隆司	45	昭和	33	竹村康子	49	昭和	37	船木美智子
38	昭和	25	津田照明	45	昭和	33	橋浦十八	49	昭和	37	三尾美和子
38	昭和	25	上野純一	45	昭和	33	古谷 隆	49	昭和	37	見義治子
38	昭和	25	長瀬正俊	45	昭和	33	佐藤池鶴子	49	昭和	37	小川信吾
38	昭和	25	羽田豊道	45	昭和	33	大郷利治	49	昭和	37	森本武男
39	昭和	26	大澤弥生	45	昭和	33	水野一彦	49	昭和	37	土方久家
39	昭和	26	米丸洋子	45	昭和	33	児玉英篤	49	昭和	37	半澤弥榮子
40	昭和	28	高瀬ミサ子	46	昭和	34	五十嵐俊二	49	昭和	37	林 幸子
40	昭和	28	千原秀夫	46	昭和	34	中村恵子	50	昭和	38	秋本紀子
40	昭和	28	眞舩恒雄	46	昭和	34	結城澄子	50	昭和	38	川田桂子
40	昭和	28	高橋重二	46	昭和	34	森 哲朗	50	昭和	38	木原幸弘
41	昭和	29	松田利子	46	昭和	34	西岡碩枝	50	昭和	38	櫻井久子
41	昭和	29	基常弘晃	46	昭和	34	川畑耕祐	50	昭和	38	武石万里子
41	昭和	29	志甫 正	46	昭和	34	竹腰時男	50	昭和	38	野中美代子
41	昭和	29	前川 昶	46	昭和	34	尾嶋司郎	50	昭和	38	福田昌平
42	昭和	30	荒川泰藏	46	昭和	34	齊藤諒三	50	昭和	38	前田一郎
42	昭和	30	佐藤哲男	47	昭和	35	梅原 弘	50	昭和	38	宮澤英雄
42	昭和	30	佐藤正美	47	昭和	35	須藤昌二	50	昭和	38	高野祐子
42	昭和	30	武内哲夫	47	昭和	35	野田久正	50	昭和	38	下田 力
42	昭和	30	山上高德	47	昭和	35	橋本喜信	50	昭和	38	飯田武治



回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
51	昭和	39	石塚典子	55	昭和	43	柿崎直和	62	昭和	50	田島明美
51	昭和	39	島田庄蔵	55	昭和	43	松野 萌	62	昭和	50	萩野洋子
51	昭和	39	島田輝子	55	昭和	43	南 菖子	62	昭和	50	吉村真理子
51	昭和	39	塚越由美	55	昭和	43	牧野由紀子	62	昭和	50	西山信右
51	昭和	39	古市郁子	56	昭和	44	深澤 宣	63	昭和	51	萩野幸司
51	昭和	39	宮城 淳	56	昭和	44	山本 恵	63	昭和	51	本郷富江
51	昭和	39	宮城征子	56	昭和	44	横山司甫	63	昭和	51	和田仁美
51	昭和	39	横山春江	56	昭和	44	酒井綾子	64	昭和	52	坂口一夫
51	昭和	39	加賀美壯一	56	昭和	44	綿鍋維男	64	昭和	52	鈴木利之
51	昭和	39	古市泰宏	56	昭和	44	鈴木英世	64	昭和	52	西山 祥
51	昭和	39	諏訪庸夫	57	昭和	45	奥村淳子	64	昭和	52	真船英一
52	昭和	40	小野澤カツ子	57	昭和	45	加藤正子	64	昭和	52	河村光恵
52	昭和	40	坂本由美子	57	昭和	45	北野栄一	65	昭和	53	井上祐司
52	昭和	40	中島良信	57	昭和	45	富田幹夫	65	昭和	53	岩崎弘子
52	昭和	40	広瀬南海子	57	昭和	45	中島和彦	66	昭和	54	川崎英之
52	昭和	40	星野洋子	57	昭和	45	藤村元成	66	昭和	54	鈴木千世
52	昭和	40	増田信男	57	昭和	45	古屋典子	66	昭和	54	真船恭子
52	昭和	40	水林須美子	57	昭和	45	米沢伸子	66	昭和	54	道見茂樹
52	昭和	40	是枝 潤	57	昭和	45	松林久一	66	昭和	54	道見優子
53	昭和	41	安西慶子	57	昭和	45	上田宗央	66	昭和	54	井上 豊
53	昭和	41	坂本理英子	57	昭和	45	真野由比子	66	昭和	54	加藤浩嗣
53	昭和	41	中村和子	57	昭和	45	石川ふさ子	66	昭和	54	荻原いく江
53	昭和	41	村上則彦	57	昭和	45	天笠之珠子	68	昭和	56	益見厚子
53	昭和	41	岩崎孝一	57	昭和	45	保坂公平	69	昭和	57	小林真弓
53	昭和	41	曲淵徹雄	57	昭和	45	林 昌美	70	昭和	58	浦本博志
53	昭和	41	南 法夫	58	昭和	46	石井誠司	70	昭和	58	笠原貴子
53	昭和	41	林 聡	58	昭和	46	石田行知	70	昭和	58	近藤浩子
54	昭和	42	市川 隼	58	昭和	46	河内秀明	70	昭和	58	茂呂今日子
54	昭和	42	市川春子	58	昭和	46	末木一夫	70	昭和	58	山口貴史
54	昭和	42	奥田昌子	58	昭和	46	穂苺 茂	71	昭和	59	大川恵子
54	昭和	42	金森未美	58	昭和	46	松田閑枝	71	昭和	59	黒田豊志
54	昭和	42	庄司幸子	58	昭和	46	村上 学	71	昭和	59	木暮政恵
54	昭和	42	庄司孝市	58	昭和	46	村田悦郎	73	昭和	61	加藤秀樹
54	昭和	42	牧戸宏行	58	昭和	46	加藤健二	75	昭和	63	伊藤由布子
54	昭和	42	松本令子	58	昭和	46	河邊恭吏	76	平成	元年	朝倉 渡
54	昭和	42	森川礼子	59	昭和	47	石田志津子	76	平成	元年	畠山伸二
54	昭和	42	山口征司	59	昭和	47	駒田由美子	76	平成	元年	河南三郎
54	昭和	42	佐藤和恵	59	昭和	47	松本茂外志	77	平成	2	増本純也
54	昭和	42	長谷見蓉子	59	昭和	47	三輪 保	77	平成	2	山本善一
54	昭和	42	小木曾周子	59	昭和	47	井本直樹	78	平成	3	出崎克也
55	昭和	43	阿部 啓	59	昭和	47	清水善行	80	平成	5	渡邊常作
55	昭和	43	石橋嘉夫	59	昭和	47	村上香代子	81	平成	6	杉山 潔
55	昭和	43	伊藤亮三	60	昭和	48	末木愛子	82	平成	7	鑄木淳平
55	昭和	43	井上みどり	60	昭和	48	田中加代子	83	平成	8	葛西美恵
55	昭和	43	梅本美智子	60	昭和	48	田谷榮子	83	平成	8	鎌倉昌博
55	昭和	43	太田晴美	60	昭和	48	山下晴義	84	平成	9	金子卓嗣
55	昭和	43	奥村啓輔	60	昭和	48	加藤マリ子	84	平成	9	膝附由香
55	昭和	43	小西和子	60	昭和	48	中西憲幸	85	平成	10	高瀬明子
55	昭和	43	鈴木 隆	60	昭和	48	水野洋子	85	平成	10	瀬川 大
55	昭和	43	滝沢春美	61	昭和	49	清永城右	85	平成	10	川邊香代
55	昭和	43	檀原宏文	61	昭和	49	杉林堅次	旧職員			渡辺和夫
55	昭和	43	加藤忠昭	61	昭和	49	和田健司	旧職員			中込和哉

## 100字通信②

⑤①、S38卒 宮澤 英雄

古稀を過ぎても店頭に立っています。周りの口さがない遊び仲間からは「いつまでヤクザやってるの?」とヤッカミ半分で冷やかされます。自分でもいつやめようか迷っていますが、濡れ落ち葉よりはマシだと思っています。

⑤②、S38卒 飯田 武治

TEL: 03-5816-5759

E-mail: takeharu5759@gmail.com

11年前会社定年後、秋葉原三井記念病院 斜め前にアイ薬局を個人開局しました。毎日忙しいですが後継者がいなく困っています。誰か知人で薬局を経営したい薬剤師がいましたら、お世話いただければ幸いです。求人広告のようで迷って遅くなりましたが、よろしく願い申し上げます。

④⑨、S37卒 鈴木 国男

昨年夏体調を崩して以来薬のお世話になり、包装のPTPシートが結構貯まる。プラ表示のため指定回収日に出しているが、どのように再生されるのか、あるいは本当に再利用に供されているのかの思いにとらわれている。

④⑧、S36卒 川上 惇

JR大人の休日倶楽部会員パスを利用した@12,000円で3日間東日本を乗り放題。青森、秋田、新庄を駆け足でまわった。秋田～新庄は普通車しかなかったが、新幹線、特急にはない「ドンコウ」の豊かさがあった。

④⑥、S34卒 川畑 耕祐

現在スーパー(株)マルエツの薬品コーナーに週4日勤務しております。今年は昨年の夏の記録的な暑さの影響で、スギ花粉が大量に飛散すると予測されておりますが、現実には2月下旬よりマスク、抗アレルギーの目薬、鼻炎薬が沢山売れております。

④④、S32卒 高木 良造

13年前、私は冠状動脈のバイパス手術を4ヶ所受けたが、先日、その時の主治医とゴルフをした。先生は、術後心室細動が頻発し、生死の境を彷徨っていた患者とゴルフができた事に大

変感慨深げであった。私は、感謝の気持ちで一杯だった。

④④、S28卒 千原 秀夫

80歳になりました。かねての思い通り一切の公職を退き、同時に申し訳ないことながら約40年間居座り続けた首都圏薬窓会の幹事も退任させて頂きました。余生は家内との小旅行とカラオケで過ごすことになるのでしょうか。

③⑨、S26卒 米丸 洋子

soka.yonemaru@tbn.t-com.ne.jp

桔梗会で保坂公平氏(57回)の「ヒトゲノム計画」についての講演を興味深く聴きました。また紹介頂いたJ.C.ベンダー著「ヒトゲノムを解読した男」も読み、ゲノムの特許レースさながらの熾烈な世界の存在に驚かされています。

③⑧、S25卒 松井 信政

平成18年脳出血発症後、片麻痺の車椅子生活をいたしております。首都圏支部総会のご案内を頂きましたが、悪しからず。会員の皆様方によりきお伝え下さい。

③①、S17卒 渡會 春雄

硫黄島から米国に渡り最近セリにかけられ、書き主不明の手帳があった。この手帳に私の名前があったことから、調べたら硫黄島で戦死した同期(31回)の堀清君のものと判明。65年ぶりながら彼の冥福を祈るのみ!

②⑧、S15卒 岩崎 光一

(元埼玉県医薬品卸協同組合理事長)

「平和」「平和」が長続きしております。昭和20年に武装解除され薬剤大尉になりました。平和であっても医学薬学は絶えることはありません。昨年悪妻に先立たれましたが、お陰様で満90歳になりました。

旧職員 渡辺 和夫

(和漢薬研究所生物試験部門)

年齢相応にいろいろありますが、とにかく元気に過ごしております。このところ俳句の世界に迷い込んでいます。句誌に「薬用植物と俳句」を連載し、10編まで掲載されました。盛會を祈ります。

藤林 順子(㉓、S10卒 故 山下 正男)

前略

本年、1月10日に父、山下正男が96歳にて永眠致しました。生前の山下正男に賜りました御厚情に篤く御礼申し上げます。取り急ぎまして御報告申し上げます。かしこ

長男(㉔、S13卒 故 金盛 益三)

大変ご連絡が遅れ申し訳御座いません。父益三は逝去し6年がたちました。本年8月に7回忌を迎えます。皆様によりしくお伝え頂きます様

宜しくお願い申し上げます。

上野ワカ子(㉘、S25卒 故 上野 純一)

平成二十二年十月九日死亡致しました。生前の御厚情感謝致します。

日野市三沢5-46-2

---

---

会報に同封されている100字通信ハガキで近況をお知らせください。またメールでの連絡も受け付けていますので、宜しくお願い致します。

---

---

## — 首都圏支部年会費振込みのお願い —

同封いたしました郵便振込用紙で、平成23年度首都圏支部年会費1,000円の振込みをお願いいたします。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。なお、会費を振込みいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。

## — 編集後記 —

私にとって3月11日は忘れられない日になりました。皆様のご親戚、お知り合い、同期生の方々の中にも、被災された方がいらっしゃるかと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

阪神・淡路大震災のあと、千葉の私のマンションでも東京から歩いて帰宅しようという話があったのですが、東京駅から直線距離で30kmという距離におそれをなしてうやむやに終わってしまいました。今回、私は早々に帰宅を諦め会社に泊まったのですが、真剣に歩いて帰宅するルートを知る必要を感じました。あとは体力が一番の問題ですね。

三金会も回を重ねるたびに、初めてお会いする方々が増えていきます。また、三金会参加をきっかけに「若手の会」が立ち上がるなど、輪の広がりをみせています。人と人のつながりは財産です。若い人たちには是非総会に出席していただき、ネットワークを広げることをお勧めします。

皆様の定期総会へのご出席を祈念しております。

(幹事長 ㉙回 道見 茂樹)

事務局 アサヒ興業・宇田川：uda@pop-asahi.co.jp  
幹事長 道見 茂樹 : toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

### 薬多津三金会 今年の開催日

5月・・・5月20日(金)

6月・・・6月17日(金)

7月・・・7月15日(金)

8月以降も毎月欠かさず第3金曜日午後6時30分から呑んでいます。

## 平成23年度「薬窓会首都圏支部総会案内」

23年度総会を下記、日程・場所にて開催いたしますので、皆様のご参加をお願いいたします。

日 時：平成23年6月18日(土) 15時～19時

場 所：「茗溪会館」 地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅から徒歩3分

住所 文京区大塚1-5-23 TEL 03(3943)0321

<http://www2.plala.or.jp/nshimada/rekishi-atarashi-meikeikaikan.htm>

話題提供 ① 竹内 誠氏 (69回卒) アステラス製薬株式会社

話題提供 ② 木村 友泉氏 (68回卒) オフィス・ライフベクターズ代表

\* 場所は昨年と同じです。

池袋から地下鉄丸ノ内線で2駅目の茗荷谷で降りてください。

\* 話題提供は2題です。

竹内様からは、「創薬研究を通して改めて感じたこと」と題しまして、ソリフェナシン(ベシケア®)などの創製に係わるお話を、木村様からは「アンチエイジングと美容」という、女性にとっては年齢を問わず非常に興味のあるテーマでお話をいただきます。

\* 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。

\* 総会に出席された方には、薬剤師研修シール(1点)をお渡ししますので、希望される方は受付まで申し出てください。

### 茗溪会館交通案内

東京メトロ丸ノ内線  
「茗荷谷駅」下車、徒歩3分

